

虚無僧踊り



高城町虚無僧踊りは、天保年間（今から約180年前）地元高来小学校の前身である「信興寺」というお寺に上方から巡歴してきた行脚僧が滞在中、妹背の子女に教え躍らせたものと伝えられている。

しばらく中断していたが、昭和23年復活の話し合いが起こり、芸の達者な寄井田宇吉さんの口三味線を三味線師匠の鹿子木伊佐さんが編曲し、現在の虚無僧踊りが成り立っている。昭和59年に保存会が結成され、伝統の継承に努めている。

この踊りは女性十数名が虚無僧姿で踊る。虚無僧は禅宗一派の普化宗の僧侶で深編み笠をかぶり、尺八を吹きながら諸国を行脚した。この虚無僧と同じ姿で尺八を手に紫頭巾の人を相手に節度をつけて踊り、華やかさはないが、優雅・端正な踊りである。

近年踊り手の高齢化により、その確保に苦慮していたが、徐々に中学生をはじめ、地域の若い世代の方々の協力を得ている。参加した方から「継承していくことの大切さ」や「世代を超えての交流の楽しさ」を感じてもらいつつ、伝統は引き継がれている。

【奉納・披露】

日程：毎年9月第2日曜日

場所：高城神社・光明坊（薩摩川内市高城町）